

ウインターカップ2021

令和3年度 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会

日時	2021年11月7日	9:30	女子	決勝
会場名	笠岡総合体育館			Mコート 第I試合
○ 倉敷翠松 84		$\left\{ \begin{array}{l} 24 - 15 \\ 14 - 16 \\ 23 - 18 \\ 23 - 20 \end{array} \right\}$		69 就実 ●

審判名	クルーチーフ	岩田友幸					1stアンパイア	大嶋将之	2ndアンパイア					柏木琢磨
選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	
菅野 亜梨珠(C)*	4	4		2		1	水田 莉央(C)	4	-					
吉田 亜子	5	2		1			大町 亜未 *	5	13	1	4	2	1	
上村 菜緒	6	2		1			浦 薫子 *	6	8		4		3	
川上 ひかり	7	0				1	前田 梨理菜	7	5		2	1		
丸山 優香	8	-					井上 日湖 *	8	8	2	1		4	
土家 梨愛 *	9	10		5			千種 るか	9	11		5	1	4	
瀬戸川 小春	10	0					芳賀 心優 *	10	14	2	4		4	
野瀬 紗奈 *	11	15		6	3	2	田川 唯奈	11	-					
倉田 美優	12	0					川崎 真子 *	12	10		3	4		
清水 咲菜	13	-					田中 優羽	13	-					
高見 遥伽	14	-					大橋 萌加	14	-					
アイビトウ グレイス*	15	43		18	7	4	丸山 ほのか	15	-					
原田 涼風	16	-					水嶋 凜奈	16	-					
島尾 七彩	17	-					岡本 唯里	17	-					
伏見 朋香 *	18	8	1	2	1	4	芳賀 心紅	18	-					
合計		84	1	35	11	12	合計		69	5	23	8	16	

戦評

決勝はインターハイ出場の倉敷翠松と昨年度のリベンジを狙う就実の対戦となった。

1Q 序盤、翠松⑮の高さに対し就実はいんサイドへの守りを強化するが、翠松⑮はリバウンドからの得点を重ねる。残り7分、翠松8-2就実となり就実タイムアウト。タイムアウト後に就実⑥のパスカットから流れを作るが、翠松⑮の連続得点を許し、残り3分には翠松20-9就実と11点の差となる。残り3分、就実⑤は翠松⑮をアウトサイドに誘い出した隙に⑩がバックカットで得点すると直後に就実⑤も3Pを沈め、翠松20-14就実と6点差にまで詰め寄る。このまま流れを掴みたい就実だがシュートがリングに嫌われ得点に繋がらず、翠松24-15就実で1Q終了。

2Q 就実⑧の3Pや⑥から⑭への合わせを得点に繋げ、序盤の流れを引き寄せる。一方、翠松は相手の激しいディフェンスによりミスが目立ち、得点できない。残り7分、翠松24-20就実と4点差にまで詰め寄せられた翠松はたまたまタイムアウト。タイムアウト明けは両者得点に苦しむが、翠松⑮がいんサイドで受けたボールを翠松⑨のミドルシュートに繋げる。対する就実もリバウンドから就実⑫の速攻に繋げるなど勢いを緩めない。しかし、残り5分を過ぎたあたりから翠松⑪が⑮へのアシストや自らのドライブなどで相手のファウルを誘い、着実に得点していく。ディフェンスから流れを作る就実⑤から⑩への合わせが決まり、就実⑧のジャンプシュートや3Pで応戦し食らいついていくが、翠松39-31就実とし、前半終了。

3Q 翠松ボールでゲーム再開。両チームともマンツーマンディフェンスでのスタート。翠松は⑪から⑮へのいんサイドプレーでバスケットカウントを奪い率先良く得点する。就実⑨のターンシュートで得点する。流れを掴みたい就実は果敢に攻めるが、オフェンスファウルで流れを掴みきれない。翠松は⑮を中心にいんサイドを攻め、④や⑪も点数を重ねていく。就実⑩の3Pや⑥のドライブで得点を重ね、残り4分で翠松53-44就実とする。翠松⑮のいんサイドを守りきれない就実はファウルが増え苦しい展開が続く。就実⑥を起点としてオフェンスを組み立てていくが、翠松のディフェンスに拒まれ、翠松61-49就実で3Q終了。

4Q 挽回を図りたい就実は3-2ゾーンディフェンスでスタート。なんとか追いつきたい就実だが、翠松⑩が冷静に3Pを決め、突き放しにかかる。就実⑩がドライブで攻めるが、シュートが入らず、得点できない時間が続く。就実⑤がスティールからレイアップでなんとか食らいつく。翠松⑮がオフェンスリバウンドを量産し、バスケットカウントを奪ったタイミングで就実がディフェンスをマンツーマンに戻す。残り5分のところで翠松後半1回目のタイムアウト。追いつきたい就実はオールコートディフェンスから⑤のドライブで得点していくが、残り4分翠松76-60就実と点差が縮まらない。両チーム積極的にドライブを仕掛け、ファウルが増えていく。残り2分、就実⑩の3P、⑨のいんサイドなどで攻めるが、翠松がリードを守りきり翠松84-69就実で勝利を掴み、2年連続17回目のウインターカップ出場を決めた。

